

関東学院大学 建築・環境学部 国際交流シンポジウム  
ーアジアにおける建築のサステナビリティと再生ー

Sustainable Renovation Projects in East Asia

李 祥準\*<sup>1</sup>

Sangjun Yi

1. はじめに

2017年11月10日～2017年11月11日まで、関東学院大学建築・環境学部の主催で開催された。2013年に創設した建築・環境学部はロシアや韓国を含め、周辺国との国際交流に取り組んできた。一方、最近では本学全体を通して国際交流の範囲も今までの東アジア諸国からベトナム、インドネシアなどを含むアジア全域に拡がりつつある。2017年は建築・環境学部の創設5周年を迎えることで、この機会にアジアにおけるサステナブル建築の創造に向けた建築的な取り組みを様々な分野から提案・議論し、国際交流をさらに深めるため、国際シンポジウムを企画した。今回は本学が主催となり、「アジアにおける建築のサステナビリティと再生」というテーマについて、様々な分野の専門家に色々な視点から講演を行って頂き、皆さんで議論する場を提供した。さらに専門分野ごとに見学会やテクニカルビジットなども実施しながら国際交流を深めた。

2. シンポジウムの概要

11月10日に開催されたシンポジウムでは、本学の規矩大義学長による歓迎の挨拶後(写真1)、建築・環境学部の大塚雅之学部長による開催の挨拶が行われた。続いて、中国 大連理工大学のリー ジュビン



写真1 規矩大義学長による歓迎の挨拶

講師、韓国 中央大学のキム ヨンス教授、台湾 国立台中科技大学のリー モンジェイ准教授、日本 早稲田大学の髙口 洋人教授から各国の建築再生や省エネルギーに関する現状についての講演が行われた。

中国 大連理工大学のリー ジュビン講師は「中国既存住区建築の品質と再生」と題して、都市化と共に増大する中国の住宅建設事情を解説すると共に、現在大規模的に行われている既存ストックの老朽化及び再生現状に関する調査と有効活用の試みを紹介した。

韓国 中央大学のキム ヨンス教授は「韓国の建物リモデリングの現状と事例」と題して、韓国の集合住宅に関する老朽化や諸事情についての説明、環境に配慮した集合住宅の再生・利活用の技術と改修事例、さらに将来のマーケット展開について講演を行った。

台湾 国立台中科技大学のリー モンジェイ准教授は「Zero Energy Building design with Indoor Environmental Quality consideration」と題して、日光、音、光、水、空気の5つの要素を挙げ、ゼロエネルギーもしくは低エネルギー建築の実現と内部環境における品質の保証について解説を行った。

日本 早稲田大学の髙口 洋人教授は「蒸暑アジアの建築デザインと生活」と題して、高温多湿のアジアにおける環境共生型建築のデータベース作成について説明すると共に、その活用例としてタイ国のモデル事例を複数紹介した。



写真2 講演後のディスカッション

\*<sup>1</sup> 所員 建築・環境学科

Dept. of Architecture and Environmental Design,  
Kanto Gakuin Univ.

一連の講演の後、高口教授を司会として、ディスカッション（写真2）が開催された。ディスカッションでは講演内容の補足や、環境共生型建築の実現についての展望などが話し合われた。

最後に遠藤智行建築・環境学科学科長より総括が行われ、国際シンポジウムは盛況の内に終了した。



写真3 シンポジウム終了後の記念撮影

シンポジウムの終了後には、懇親会が5-102を会場に開催された。会場には講演者と建築・環境学部の教員だけでなく学生たちも一緒に参加し、国際交流が行われた。



写真4 懇親会の様子

### 3. 分野別ワークショップの概要

11月11日には、招聘した韓国・中国・台湾の講演者と一緒に3つの専門分野（デザイン・計画分野、エンジニアリング分野、環境設備分野）に分かれ、日本の建築探訪やテクニカルワークショップを行った。

デザイン・計画分野では、中国 大連理工大学のリー ジュビン講師と一緒に黄金町高架下や日本大通りの建物を見学するとともに黄金町エリアマネジメントセンターの山野真悟 事務局長によるレクチャーを行った。その後、場所を移動しディスカッションを行った。見学には黒田泰介教授、柳澤潤准教授、柳澤研究室の学生が参加した。

エンジニアリング分野では、韓国 中央大学のキム ヨンス教授と一緒に「旧華頂宮邸（鎌倉市）の保全を目指して」をテーマに旧華頂宮邸を見学した。また、旧華頂宮邸の保存や活用のためにワークショップを開催した。見学には、鎌倉市職員と横須

賀地域耐震研究会を含め、高島英幸教授、李祥準講師、エンジニアリング分野の大学院生と韓国から来日したオ ヒグン氏、パク ジョヨン氏が参加した。

環境設備分野では、台湾 国立台中科技大学のリー モンジェイ准教授と一緒に横浜港大棧橋国際旅客船ターミナルを見学した後、建築（横浜三塔）を見学しながら関内メディアセンターへ移動し、見学施設の説明やディスカッションを行った。参加者としては大塚雅之教授、遠藤智行教授、山口温講師、呉光正助手、設備分野学生があった。



写真4 旧華頂宮邸



写真5 エンジニアリング分野のワークショップ

各専門分野のワークショップを終了後、みなとみらいのドックヤードガーデンに集結し、フェアウェルパーティーを行った。

### 4. おわりに

二日間にわたり、行われた国際交流シンポジウムは初日の午前中に行われた理工／建築・環境学会の研究発表講演会と連携することで学生も積極的に参加することができた。今回のシンポジウムは学生たちにとってアジアの建築環境を知る重要な機会となり、彼らの今後の活躍幅を広げることを期待する。本学の建築・環境学部としては、アジア諸国との国際交流をさらに進めることに前進した。